

## 「岡崎乾二郎」展

2025年4月29日(火・祝)～7月21日(月・祝) 開催決定

東京都現代美術館では、2025年4月29日から「岡崎乾二郎」展を開催いたします。

日本を代表する造形作家であるとともに、建築や環境文化圏計画、絵本、ロボット開発などの幅広い表現領域を手がけ、さらには文化全般にわたる批評家としても活躍してきた岡崎乾二郎（1955-）の核心に迫る東京における初の大規模な展覧会です。近年国際的な評価も高まるこの作家が大きく転回した2021年以降の新作を中心に、過去の代表作も網羅しつつ、世界認識の方法としての造形の可能性と力を提示します。



左) 岡崎乾二郎

《But in truth, the first creatures were driven from the sea. They fled. That's why so many of us get seasick. A mudskipper crawled onto the beach, raising its head. "Look," he said, beholding the vast expanse. "Thousands of miles of flat nothing."  
Fish swim through water endlessly; no end to the water they swim. Birds fly through sky ceaselessly; no end to the sky they fly. There is no reason. We skipped the light fandango, though in truth we were at sea. She said, "I'm home" leaving for the coast. Darkness covered the empty earth; The Spirit hovered over waters. Let there be waters teeming with life, birds multiplying on earth. All that moves in sea and sky, each according to its kind, merely drifted through the world. Evening fell, then dawn broke.》

2024 | 182.0×260.7 cm | アクリル、カンヴァス

Photo©Shu Nakagawa

右) 岡崎乾二郎 \*作品タイトル未定

2024 | 224.0×363.5 cm | アクリル、カンヴァス

Photo©Shu Nakagawa

## 岡崎乾二郎（おかざき・けんじろう）

造形作家、批評家。

1955年東京生まれ。1982年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。総合地域づくりプロジェクト「灰塚アースワーク・プロジェクト」の企画制作、「なかつくに公園」（広島県庄原市）等のランドスケープデザイン、「ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展」（日本館ディレクター）、現代舞踊家トリシヤ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開してきた。東京都現代美術館（2009～2010年）における特集展示では、1980年代の立体作品から最新の絵画まで俯瞰。2014年のBankART1929「かたちの発語展」では、彫刻やタイルを中心に最新作を発表した。長年教育活動にも取り組んでおり、芸術の学校である四谷アート・ステュディオム（2002～2014年）を創設、ディレクターを務めた。2017年には豊田市美術館にて開催された『抽象の力ー現実（concrete）展開する、抽象芸術の系譜』展の企画制作を行い、2019～20年には同美術館で大規模な個展「視覚のカイソウ」が開催された。

主著に『而今而後 批評のあとさき（岡崎乾二郎批評選集 vol.2）』（亜紀書房 2024年）、『頭のうえを何かが』（ナナロク社 2023年）、『絵画の素 TOPICA PICTUS』（岩波書店 2022年）、『感覚のエデン（岡崎乾二郎批評選集 vol.1）』（亜紀書房 2021年）、『抽象の力 近代芸術の解析』（亜紀書房 2018年）、『ルネサンス 経験の条件』（文春学藝ライブラリー、文藝春秋 2014年）、『芸術の設計ー見る/作ることのアプリケーション』（フィルムアート社 2007年）。『ぼぱーべ ぼびぱっぷ』（絵本、谷川俊太郎との共著、クレヨンハウス 2004年）。作品集に『TOPICA PICTUS』（urizen 2020年）、『視覚のカイソウ』（ナナロク社 2020年）。

『感覚のエデン（岡崎乾二郎批評選集 vol.1）』にて2022年、第76回毎日出版文化賞（文化・芸術部門）受賞。『抽象の力 近代芸術の解析』にて、2018年、平成30年度（第69回）芸術選奨文部科学大臣賞（評論等部門）受賞。

## 展覧会概要

展覧会名 岡崎乾二郎  
会 期 2025年4月29日(火・祝)～7月21日(月・祝)  
開館時間 10:00 - 18:00（展示室入場は閉館の30分前まで）  
会 場 東京都現代美術館 企画展示室 1F/3F  
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館  
問 合 せ 050-5541-8600（ハローダイヤル）  
企 画 事業企画課 企画係 藪前知子  
※観覧料、休館日など詳細は、決定次第ウェブサイト等で公開します。

## 広報用図版

広報用図版として 2 点をご用意しております。画像の利用は、展覧会の広報・紹介を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（デジタルメディアを含む）の記事内のご使用に限ります。お貸出しをご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、必要事項とあわせて図版番号をメール（[mot-pr@mot-art.jp](mailto:mot-pr@mot-art.jp)）にてご連絡ください。

**必要事項** 御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日

## 貸出条件

- 画像には作品情報（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、色彩変更、編集その他の改変はご遠慮ください。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。また、記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトの URL、DVD、CD 等をお送りください。
- 記事の転載その他のお貸出しした画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。



01

岡崎乾二郎

《But in truth, the first creatures were driven from the sea. They fled. That's why so many of us get seasick. A mudskipper crawled onto the beach, raising its head. "Look," he said, beholding the vast expanse. "Thousands of miles of flat nothing."

Fish swim through water endlessly; no end to the water they swim. Birds fly through sky ceaselessly; no end to the sky they fly.

There is no reason. We skipped the light fandango, though in truth we were at sea. She said, "I'm home" leaving for the coast.

Darkness covered the empty earth; The Spirit hovered over waters. Let there be waters teeming with life, birds multiplying on earth. All that moves in sea and sky, each according to its kind, merely drifted through the world. Evening fell, then dawn broke.》

2024 | 182.0×260.7 cm | アクリル、カンヴァス

Photo©Shu Nakagawa



02

岡崎乾二郎

\*作品タイトル未定

2024 | 224.0×363.5 cm | アクリル、カンヴァス

Photo©Shu Nakagawa

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・稲葉・内堀・野川

TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。